



世田谷稲門会会報

平成25(2013)年4月20日

第 52 号

稲門会 一實一夫子次行男子
 稲門会 俊邦信利秀昭俊
 稲門会 上田並島子原内林巢
 稲門会 世田谷赤堤3-15-15
 稲門会 武居達治
 稲門会 世田谷区赤堤3-15-15
 稲門会 TEL/FAX 03-3322-8455
 稲門会 武居達治

事務局
 東京都世田谷区赤堤3-15-15
 TEL/FAX 03-3322-8455
 武居達治

世田谷稲門会第22回定時総会 元総長西原春夫氏が講演 6月9日(日)ハイアットトリージェンシー東京にて



第2部では元早稲田大学総長西原春夫氏に「二十一世紀人類社会を導くべき和の精神」と題してご講演をいただきます。お楽しみください。

西原春夫氏略歴

世田谷稲門会の第22回定時総会が西新宿にあるハイアットトリージェンシー東京(新宿駅西口より徒歩9分、地下鉄丸の内線西新宿駅より徒歩3分)にて午後4時から開催されます。なお、ホテルまでの送迎バスは、小田急ハルク前35番から出ます。総会の詳細については同封別紙の「第22回定時総会のご案内」をご参照ください。

是非皆様のご出席をお待ちしております。なお、当日ご出席いただけない場合は、同封の委任状(返信用はがき)にご記名・ご捺印のうえご返信くださいますようお願いいたします。

総会の会費は8000円です。

1928年東京・武蔵野市生まれ。早稲田大学名誉教授。専門は刑法。同大法学部に学び、同大大学院を経て、67年教授、72年法学部長、そして82年に早稲田大学第12代総長に選出され、以降2期8年間、早稲田大学の顔として活躍。86年、早稲田塾町田校で講演したことをきっかけに、塾の必要性を実感。日本刑法界の権威であるとともに、日本私立大学団体連合会会長など、数多くの要職を歴任。著書は「刑法総論」、「刑法の根底にあるもの」他多数。

現在は、財団法人アジア平和貢献センター理事長、財団法人矯正協会会長、等。2007年11月、瑞宝大綬章受章。

=母校の今=(第25回)

早稲田の「外国人留学生事情」

既に本会報50号で紹介したが、早稲田大学の「人材育成ビジョン」の中心「グローバルリーダー育成プロジェクト」推進の拠点の一つ「早稲田大学中野国際コミュニティプラザ(国際学生寮)」が、来(2014)年4月のオープンを目指し目下建設工事が進められている。この「国際学生寮」の収容人員は872名であるが、国際交流と人材育成の促進を図るべく、日本人学生と留学生の入居比率は1対1に設定されるという。

ところで、最近の「留学」に関する統計資料で、2000年以降の日本から海外への留学者数の推移状況を見ると、2000年の76,454名に始まり2004年の82,945名をピークに、以後、国際化時代に逆行するかのようになり、2009年には59,923名にまで減少してきているのが現状である。

一方、その間、早稲田は「大学のグローバル化・学生

の内向き志向の打破」に取り組み、海外への派遣留学生の数を2003年の1,032名から2011年には2,079名に倍増させ、さらに早稲田の受入留学生数も、2004年の1,769名から2011年5月時点では約3,400名へとほぼ倍増させた。因みに、この受入留学生数は日本の主要大学の中で第1位で、以下、2位に東大、3位は立命館アジア太平洋大、そして、九大、阪大、筑波大、京大、慶大、明大が続く。

何れにせよ、早稲田には、現在、約4,200余名の外国人学生・留学生が在籍し、約2,000余名の学生が海外で学び、さらに今後も海外からの留学生受入れ数1万名を目指し、日本の文化・社会を理解する外国人の育成を進めていくという。早稲田は、「東西古今の文化の潮、一つに渦巻く」最高学府への道を着実に歩む！

(大内 秀行/記)



新春懇親会 華やかに開催
五輪メダリスト、山中毅氏が講演
 — 2月9日 目黒雅叙園で —

94名の出席で開催

第一部は華うたげの間で、熊谷慶紀さん（昭38、政経）の司会進行で始まった。ゲストに元オリンピックメダリストの山中毅さんをお迎えして講演会を開催した。



講演する山中毅氏

山中さんは昭和14年、石川県輪島でお生まれになり、戦時中から戦後にかけての色々な苦労話や子供のころから大学までの水泳とのかかわりについて、とてもフランクにお話しいただいた。以下にその内容の一部をご紹介します。

現在の水泳はターンのやり方やコースロープの改善などで、ものすごくスピードが速くなっている。昔の自分の記録は今の女子中学生の記録だ。今は50mを平均して29秒で泳ぎ、1500mで14分30秒くらい。これが今の世界記録だ。
カニばかり食っていた
 自分は7人兄弟の5番目に生まれ、夏は離島で漁業をしていた。小学校1年で終戦をむかえ、毎日近場で獲れたカニばかり食っていた。おかげでいまだにカニが嫌いだ。3歳くらいの時に泳ぎ始めた。島で運動会があったが、小さい頃から水泳は上手で、皆より速すぎるためいつも水泳大会では1等賞の賞品を事前にもらって、実際には泳がしてもらえなかった。

本格的に水泳に取り組んだのは高校生になってからで、大先輩の高石勝男さんに水泳を教わった。もともとは短距離の選手だったが、練習がいやでサボったため罰で長い距離を泳がされた。



講演会会場

早稲田大学が静岡で合宿していたところに参加させてもらった。ナイターの神宮プールで試合し、優勝したが記録が悪く、すぐにはオリンピック選手に決まらなかったが、その後、選ばれた。

早稲田大学が静岡で合宿していたところに参加させてもらった。ナイターの神宮プールで試合し、優勝したが記録が悪く、すぐにはオリンピック選手に決まらなかったが、その後、選ばれた。

早大静岡合宿に参加

1000mより1500mの方が実際は楽だと思う。北陸3県高校選手権での記録が良かったので合宿に駆り出された。その後、インターハイに初出場が優勝した。輪島の寒い冬に14℃程度のプールで練習し皆でドラム缶の風呂に入ったのを覚えている。

に足にまめができてえらい目にあつた。メルボルンではマレー・ローズにくらいついていて2位になったというのが偽らざる気持ちだ。

その後、大学へ入った。1年生は部員ではなく「新人」だった。3年生の新人係が1年間みっちり鍛えてくれた。上級生を負かすのがうれしくて一生懸命練習した。しごきはあつたが信頼もあつた。

今話題の体罰問題について

叩くのは良くない。いじめは良くない。信頼関係があればカツをいれるのはいいと思う。日米対抗戦で、試合で泳いでいる最中に負けそうになり、コーチに「ばかやろう」と言われカツを入れ直して勝った。
福引もあり賑やかに



乾杯音頭の上田さん

第二部は場所を夢扇の間に移し、篠崎章子さん（昭52、政経）の司会で進められた。岩上会長のご挨拶の後、杉並稲門会の山田實会長から「会員の皆さんは幹事に感謝せよ。」

との誠にありがたいご挨拶をいただいた。乾杯の音頭は出席者中最長老の上田忠雄さん（昭26、理工）にお願いした。目黒雅叙園の美味しい料理とお酒をいただき、一息ついたところで恒例の福引抽選会が始まった。福引は柏良子さん（昭31、政経）の進行のもとに60点ほどの賞品が配られた。



福引抽選会

声高らかに都の西北
 福引終了後、現役応援部のリーダー高橋一也君のリードのもとに、最後は全員で肩を組んで早稲田大学校歌「都の西北」を声高らかに熱唱し、4時間にわたる新春懇親会の幕を閉じた。



校歌斉唱

（榎並 俊一／記）

部会だより

ゴルフ

A) 平成25年コンペ日程

第74回世田谷稲門会	3月29日(金)	中津川CC
第8回三田会・稲門会	5月16日(木)	桜ヶ丘CC
第75回世田谷稲門会	6月3日(月)	都留CC
第76回世田谷稲門会	10月4日(金)	富士国際GC
第77回世田谷稲門会	12月3日(火)	桜ヶ丘CC

三田会・稲門会懇親コンペは今年から年1回春に開催することになりました。

B) 第73回世田谷稲門会ゴルフコンペ

平成24年度4回目のゴルフ会は50名の参加を得て12月4日(火) 桜ヶ丘CCで開催されました。

優勝は磯田進さん、グランドシニア優勝は長谷川宏さん、シニア優勝は高橋毅さん、レディス優勝は竹入啓子さんとなりました。

C) 代表世話人の交替

代表世話人の森昌治さん並びに熊谷慶紀さんが勇退されたため、新しい代表世話人には青木誠司が就任しました。他の世話人は従来通り桃井清治、工藤隆司、磯田進が務めます。また新しい監事には井口昭が就任しました。引き続きよろしくお願い申し上げます。
(工藤 隆司/記)



スポーツ観戦

1. スポーツ観戦部会の今季観戦スケジュールとして、下記を予定しています。

- ① 野球 春・秋早慶1回戦 神宮球場
- ② ラグビー 早明戦 12月第1日曜日 国立競技場

なお各試合観戦後、恒例により「外苑前」駅近くの「増田屋(そばや)」で懇親会を行います。

2. 平成25年春季リーグ戦(野球)の日程がきまりました。

早大の試合日をご連絡いたしますので、早慶戦に限らず全試合熱き応援をされるようお願いいたします。今年度野球部の主将として、東條 航(とうじょうわたる)君(内野手・桐光学園)が選ばれ、最高のプレーで優勝を勝ち取るとともに「人間性を高める」をスローガンに、学生として人間形成にも努めるとのことです。大いに期待しましょう。

(試合日程)

4・20(土) 21(日) 東大	4・27(土) 28(日) 明大	5・11(土) 12(日) 立大
5・18(土) 19(日) 法大	6・1(土) 2(日) 慶大	(川村 保夫/記)

俳句

平成25年の初句会は1月16日に日下野由季先生の指導により『七草』の俳句を持ち寄り、新年会を兼ねて開催されました。2月の句会は兼題『水温む』と季節に相応しい俳句により行われました。尚、3月の句会の兼題は『亀鳴く』に挑戦するようにと出題されました。それでは両句会の高得点句を紹介します。

初夢の母まだそこに居るやうな	松尾 守(まもる)
七草や朝餉告ぐ声やはらかし	家井雪子(雪子)
せりなずなごぎょうはこべら母がいる	榎並俊一(恵那)
万葉の歌集繙く建国日	草谷好孝(好孝)
千年の紅梅しだる古都の塀	江原利次(利水)
マラソンの人を映して水温む	沼田宣子(宣子)
草餅や歴史遺産の家覗く	暮田忠雄(上馬の)

(江原 利次/記)



芸術芸能鑑賞

平成25年は厳冬が予想されたので、あえて1~2月のイベント案内は少なくした。それでも有志12名で人気の「三越落語会」に出かけた。3月16日に花田さん出演の「ポピュラーミュージック・コレクション」(日比谷)に8名参加、4月7日は岡村喬生さんの「冬の旅」(東京文化会館)に6名参加、さらに3月22日に「三越落語会」は20名の多数となった。今後の予定としては5月には年一回の文楽鑑賞を予定している。5月22日に第一部(11時開演)会場は国立劇場となる。歌舞伎鑑賞は年後半に実施の予定。

(鈴木 宏治/記)

食べ歩き

平成25年2月24日(日) 第55回(本年度第3回)例会は港区赤坂青山「ロビズクラブ」にて開催した。会場は青山御所の向かいにあるカナダ大使館の入るビルの地下1階にあり、重厚な調度品で飾られた優雅な雰囲気がある会員制のクラブハウスである。

快晴とはいえ厳寒の当日であったが、参加者は50名で大会始まって以来の盛況であった。

冒頭、大会世話人代表として長い間御尽力いただいた、大須賀肇氏(9ページをごらんください)に対して一同 黙祷を捧げ、献杯した。中ほどで初参加者2名の紹介、関根昌一氏88歳誕生日のご挨拶、横田副会長から総会(6月9日開催予定)の案内、等々があり、楽しい会食・懇談ののち、岩上会長の音頭による校歌斉唱により閉会した。次回は5月開催予定。

(加藤 隆夫/記)

パソコン

原則月2回開催される定例会(勉強会)には毎回約10名の会員が参加しています。昨年11月以降の課題として、写真シール印刷「ぷりんしる」の使い方・干支素材蒐集・わたし年鑑(思い出画像)の作成・ミラー額縁入り画像の作成・NHKネットラジオの試聴・確定申告書「e-Tax」利用検証・「SnippingTool」の利用方法・エクセルの基本操作等を学習しました。



12月は渋谷の中華料理店で忘年会、1月には例会後教室で新年顔合わせ会(写真参照)を行い、会員相互の親睦を深めました。尚、4月初旬に年1度の定例総会を開催する予定です。

追記:平成24年12月2日世話人(企画)の竹村晃氏が逝去されました。合掌

(岩城 好宏/記)

囲碁

新年会を平成25年1月12日(土)、13日(日)で世田谷区老人保養施設「ふじみ荘」にて1泊2日で開催し、熱戦を繰り広げました。参加者は総勢13名でした。以前、俳句部会(さくら会)のご指導をいただいていた高橋悦男先生(現在の日下野由季先生のお父上)も初参加されました。また、12日夜は食堂で懇親会を開催し、大いに飲み、語りました。囲碁部では1泊研修会を今回も含めて4回/年以上開催する予定にしております。



(参加者;敬称略) 星野聡史、齊藤政二郎、武藤哲、矢田廣、萩原健、大槻忠孝、遠藤昌宏、高橋悦男、榎並俊一、池松正之、大庭克治、佐伯潤、丸山晃

(榎並 俊一/記)

釣り

10月13日 羽田沖にて部として初めてのルアーによるシーバス釣りを3名参加にて行なう。シーバス70cmを頭にイナダ、大カマス等10匹を釣る。シーバスの豪快な釣趣に酔う。

12月24日 剣崎沖へ真鯛、イナダ釣りを利一丸より6名参加で行なう。当日快晴なれど強風にて波浪高し。程々の釣果。

1月21日 京橋中華料理店新世界にて新年会。10名参加有り盛大な宴会となる。110種の料理を選び、食べ放題飲み放題3千円は安い。西尾氏の釣り揚げた60Kgのローニンアジの魚拓を披露する。

1月27日 剣崎沖石鯛、鯰、鯖釣り5名参加。石鯛出ず。

2月23日 金沢八景新健丸よりイシモチ釣り3名参加。30匹程釣る。新ワカメを土産に買う。冬の磯釣りは、富戸にて寺島氏40cmのメジナ釣る。柴田熱川へ真鯛釣りに4回釣行したが、不漁。

3月1日の溪流釣りも狩野川系不漁であった。

(柴田 昇/記)



カラオケ

■平成24年12月1日(土)第69回月例会は“越冬つばめ”を歌う時季になり、下北沢コートダジュールにて11名参加3室でたっぷり各人9~10曲を熱唱しました。

■平成25年の1月6日(日)第70回月例会<新年会>は千歳船橋「マダムチョウの店」にて16名参加。「今年も100歳めざして健康カラオケをモットーに! (倉田豊)」「HPの推奨! (岩上健一)」「店名にちなみ蝶ネクタイで乾杯! (清水明雄)」4時間好きなジャンルを各人3曲熱唱。最後に岩上会長リードの校歌斉唱で新年がスタート。なお計48曲の<リクエスト一覧表>の一部を公表しますので雰囲気?をご推察戴ければ幸甚です。

♪テネシーワルツ・ダイアナ・東京キッド・名もない花

に乾杯・矢立の杉・ふるさとの話をしよう・おしろい花・曲色治(えんや)な気分・シャララ赤坂・友よ・花も嵐も・吉田松陰・日本橋から・京都ひとり・ひとり薩摩路・窓・スペインの恋歌・追憶

(倉田 豊/記)



写真

(1) 実績報告

例会：10時~13時30分 東京農大校友会館 教室 (通常は第3木曜日)

平成24年9月20日、10月18日、11月15日、12月13日

平成25年1月17日、2月21日、3月21日。

(2) 今後の予定

例会：8月は従来から休会しています。

4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月休み、9月19日。

(種谷 鴻成/記)

ウォーキング

平成25年の新春ウォーキングは、1月13日(日)に八丁堀から隅田川沿いに江戸の名残を求めての散策となり、飯田橋での新年会で大いに盛り上がりました。2月10日(日)はつつじヶ丘駅に23名が参加し、深大寺から神代植物園では3階建ての温室内を鑑賞、さらに大正13年に東京麻布から移転した三鷹の国立天文台の天文台歴史館では、担当者から数々の研究成果の説明を聞くことができました。

『歩かなくなった民族は滅びるぞ』との江原部会長の言葉に鼓舞されながら、西調布駅までの6キロのコースを歩きました。

(斉藤 治雄/記)



麻雀

- 平成24年11月11日(日)麻雀荘「天狗」(以下会場は同一)に集い、終日麻雀を楽しんだ。試合は、前半まで実力を秘し、遠慮していた阿部氏が後半本来の実力をフルに発揮し、大量得点を叩き出し、久し振りに賜杯を手にした。優勝 阿部信之、準優勝 吉村善智、3位 橋本大道、4位 桃井清治、5位 武田一成、6位 河村卓郎、7位 飯田保則
- 同年12月15日(土)前月大苦戦した奥田氏が雪辱を晴らす如く、2回戦以降終始トップを独走し、追い迫る阿部・吉村・清水各氏を突き放し、久し振りに溜飲を下げた。優勝 奥田隆、準優勝 阿部信之、3位 清水胤式、4位 吉村善智、5位 武田一成、6位 河村暉子、7位 古谷珠樹
- 平成25年1月20日(日)久し振りに参戦した原氏が追い縋る飯田・長谷川・加藤3氏を僅差で退け、初優勝した。優勝 原 明、準優勝 飯田保則、3位 長谷川義樹、4位 加藤禮子、5位 清水胤式、6位 熊本ちずる、7位 高橋義幸
- 同年2月16日(土)試合はスロースターターの長谷川氏が後半持てる力をフルに発揮し、先行する高橋・田島・河内各氏を僅差で下し、初優勝を遂げた。優勝 長谷川義樹、準優勝 田島功統、3位 郡山弘文、4位 高橋義幸、5位 河内文雄、6位 有利純太郎、7位 下谷内 堯

(下谷内 堯/記)

青年

まだ肌寒さの残る季節ですが、平成25年3月8日(金) 19時より青年部会を開きました。当日の急用、急病で欠席される方もいらっしゃいましたが、部会発足以来最多の17名の方にご参加いただき、新日鐵住金の保養施設である「代々木倶楽部」にて行いました。新しい顔ぶれも増え、徐々にですが、青年部会も他の部会に負けないうらい活気づいてきたように思います。また、今回は初の二次会を同じ代々木倶楽部のバーで行い、夜遅くまで盛り上がりました。飲み過ぎて翌朝二日酔いの方もいらしたかも。

青年部会と名乗っていますが、実際には年齢制限は設けておらず、現役で仕事をされている「青年の心を持つ方」であれば、ご参加頂いています。ご興味のある方は是非ご参加下さい。次会はビールが美味しい7月頃を予定しています。



(神谷 直希/記)

ブロック会だより

キャロット

平成24年12月9日(日)午後5時より、三軒茶屋の「廩」において、キャロット会の忘年会を開催致しました。

当日は北風の強い寒い日でしたが、17名の会員(井口昭、榎並俊一、遠藤智、奥田隆、川井泰彦、久保宏、西喜永治、佐野暢彦、下山芳男、堤達也、中井盛久、萩原健、長谷川義樹、東直彦、森昌治、守谷之男、富塚兆弥)が集まりました。

最年長の奥田さんの乾杯の発声で宴会が始まり、出席者全員の近況報告を行いました。

平成25年は4月5日(金)に隅田川を屋形船に乗って花見の会、11月30日(土)に忘年会の開催を予定しています。



(富塚 兆弥/記)

玉川

平成24年12月19日、冬寒の日に、電源開発磯子石炭火力発電所の見学会を8名(男性5名、女性3名)でおこなった。原発停止と石油&LNGが高騰している中で、石炭火力発電の様子を知る好機会であった。発電所の概観は、狭い敷地・クリーンなオフィスビル・送電線や鉄塔も無かったこと、高い煙突からは白い煙、蒸気さえ見えなかったこと、石炭輸送船から陸揚げ後に石炭の姿はいっさい見られなかったことが極めて印象的であった。

又、排煙には「PM2.5」も無く、硫酸化合物もアメリカの1/3400まで除去し、日常生活の空気よりクリーンであることや、同発電所の出力が原発一基分に相当すること、仮に太陽光発電でその電力を賄うには山手線内全域にパネルを敷き詰めなければならないこと等を学んだ。

見学会終了後、横浜馬車道の中華料理店で簡単な会食を行い、世界No. 1を誇るわが国の最新設備に感嘆の声とともに意見交換を行い有意義な時間を過ごした。



(高橋 義幸/記)

きぬた

きぬた会の活動は、平成24年7月の第2回以降、11月開催予定の懇親会を延期した為、第3回目は12月の新入会員と幹事の顔合わせ会となった。

12月9日(日)に成城駅ビル内のイタリア料理店「アマルフィイ・カステッロ」にて、新入会員8名中5名の方の出席を頂き、現幹事4人と前幹事2人、合計11人で和やかな顔合わせが出来た。

先ず全員が自己紹介を行い、次に幹事より世田谷稲門会ときぬた会の簡単な活動状況を説明し、後は和気あいあいとした雰囲気では進み、顔合わせは成功裏に終わった。

平成24年度の締めくくりの会は、3月17日(日)に、根津美術館の見学とNHK青山荘での和会席料理の昼食会を予定している。

(高橋 毅/記)

西北

平成24年12月18日(火)18時より参宮橋の新日鐵代々木倶楽部にて本年3回目の第27回西北会例会が開催された。今回は27名の参加者のうち8名が新入会員という新旧の入れ替えが進んだ例会でした。メインのスピーチは年末恒例になった中野稲門会の赤羽根邦雄氏による「新春箱根駅伝大予測」。その後開宴となり、新入会員を交えた和気藹々の懇親交流の輪が広がった。

翌日12月19日(水)は早朝より日高CCのチャンピオンコースで「西北ゴルフ会」を実施。他ブロックより島田實、宮坂尚利、榎並俊一の強豪3氏をゲストに迎え、12名3組でスタート。この難関コースを当会代表の松浦晋三郎氏が見事優勝。19番ホールは梅丘の“梅ぞの”に戻り、猛反省会が繰り広げられた。

続いて年も明けた平成25年1月7日(月)17時から17名の会員が地元の北澤八幡神社に集結し、初詣を行った。その後、家族の健康などを祈念した清々しく厳かな気持ちを抱きながら下北沢へ戻り“エスカフェ”で新年会に突入。

なお、今後の予定としては3月14日(木)午後5時より東松原「庄や」にてサポーター会、3月22日(金)午後6時より新日鐵代々木倶楽部にて第28回西北会例会を実施。例会の講師は櫻井昭一氏(36年政経)、演題は「百名山踏破」。(桃井 清治/記)

千歳

平成25年4月13日(土)午後1時に京王線つつじヶ丘駅北口に集合し、バスにて『神代植物公園』および『深大寺』へ花を愛でながらの散策を楽しみます。見学後はバスにて調布へ向かい、午後5時から調布パルコ内の中華料理『唐采』にて会費5,500円(懇親会費5,000円、年会費500円)で懇親会を開催致します。尚、見学会及び懇親会には家族同伴も呼び掛けて、千歳会の親睦と今後の発展を心掛けていきます。

(鈴木 宏治/記)

けやき

平成25年3月2日(土)けやき会の春は観梅会と懇親会から始まります。昨年、あいにくの悪天候から取りやめとなった羽根木公園の観梅会、今年はお天気にも恵まれ、満開の梅の花の色と香りを堪能しました。

その後はミニウォーキング、梅丘から下高井戸までウォーキング部会のメンバーのガイドで懇親会会場へ。お魚が美味しいと評判の居酒屋、「爺(じい)」です。お店の名前は少々気になる…とのつぶやきも。

さて、出席者が全員揃ったところでまず簡単に事務連絡、昨年度から会則を定め、通信費を全員から徴収することなど。

その後は最長老の角田真一郎先輩(昭和22高師)の乾杯の音頭で賑やかに宴が始まりました。お一人ずつの近況報告では、さまざまな場で生活をエンジョイされている様子が興味深く、最も盛り上がるひとときです。その後、部会の報告、校歌斉唱で締めくくり、集合写真撮影でお開きになりました。19名の参加でした。

来年度の懇親会は4月の総会、7月に納涼会、10月、来年1月を予定しています。(井上 文/記)



さくら

平成25年最初のさくら会懇親会は2月3日(日)イタリアンレストラン『ルレ サクラ』で23名参加により、ランチを楽しみながら開催されました。

当日は、本部から岩上会長、鈴木、横田両副会長も参加され、参加者全員による3分間スピーチで趣味、健康、人生訓が話されました。さらに全員に賞品、参加賞の出るビンゴゲームを楽しみました。

なお、さくら会の今後の運営については、江原部会長、飯島、佐々両幹事により行われることに決まりました。閉会に先立ち前原氏の挨拶で締めてもらい、都の西北の合唱となりました。次回のさくら会懇親会は6月2日(日)に開催を予定しています。(江原 利次/記)

会員の広

新たな環境問題

PM2.5について

上田 忠雄(昭26理工)



今年は3月1日に春一番が吹いて春の到来を告げてきた。寒い冬から暖かい春へと心が和んだけれど、毎年悩ましいのは花粉による被害である。しかし今年は1月早々から例年にならないPM2.5による大気汚染物質の騒ぎが持ち上がった。PM2.5とは何であろうかと、多くの人達には恐らく初めて聞く言葉であろう。

環境用語には横文字の表現が多い。PM2.5 (Particulate Matter) の略記で、日本では以前から「大気に浮遊する微小粒子状物質」として扱われ、2.5とは「浮遊する微小粒子の直径が2.5マイクロ・メートル以下の物質の総称」を表わしている。何々といった特

定の物質の固有の名称ではない。またマイクロはμとも書き、

メートルの100万分の1の寸法に当たる。簡単には、よく知られるスギ花粉は平均粒径が約25μmで、PM2.5はスギ花粉の約10分の1の直径の微小浮遊粒子と云うことである。つまり花粉粒子よりさらに細かい粒子が問題となってきたのである。日本の環境基準では「大気一立方メートル当たり一日平均70μg超」をもって、この粒子群の大気環境濃度と健康被害の注意喚起が行われるように決められている。

今回の騒ぎは昨年末から中国の北京や華北などで環境が悪化し、高濃度の粒子物質が観測されたのが始まりである。環境汚染濃度が一立方メートル当たり700μg。日本の環境基準の10倍以上の濃度を観測し、今なお続いていると云う。大変な状態である。またこの時期、砂漠からの黄砂(PM10程度)も舞い上がっている。そしてこれらの浮遊した微小粒子が拡散移動して周辺地域に降下し、汚染地域を広げている。隣国インドのニューデ

環境基準値の約7倍)を記録したと云う。

さて日本では春先から6月頃まで花粉症で悩まされているけれども、これよりも約10分の1も細かい微小の浮遊粒子による健康被害は、これまで殆ど皆無かあるいは極めて少ないかと思われる。もし偏西風によって中国から飛来し、先の健康の基準値を超えて日々の大気環境が汚染されることになった時には、どのような対処したら善いのであろうか、非常に心配される。花粉用のマスクでは目が粗くて防げないであろうし、口や喉に入ると気管支や肺までに侵入し、これらの器官部位の炎症の原因となりはしないかと危惧されるのである。そしてPM2.5微小粒子状物質の物理的ないし化学的知見に基づく環境への影響、毒性や疫学的知見に基づく健康への影響等、必要な情報はまだまだ不十分ではないかと懸念されるのである。

PM2.5については花粉問題に加え、新たな環境問題として捉え、特に健康被害への影響については、正確な情報を分かりやすく且つ迅速に我々国民に提供して欲しいものとの念願する。

早稲田ファミリーに迎えられて

寺澤 宣子 (故寺澤隆夫氏夫人)



「次のウォーキングは下町の七福神巡りだつて、行くぞう?」
「永く世田谷に住んでいてここには行った事なかったね。申し込んでおくよ。」
「三軒茶屋で落語会があるよ。うれしいなあ。」
「船で納涼会の案内が来たよ。楽しみだね。」

私たちは毎月届く稲門会部会のお報せを何より楽しみにしております。お誘い頂く催しに都合のつく限り参加して、そのメンバーと恵まれた時間を過ごすことが出来る事をどれだけ楽しみにしていました事か。何時も主人共々夫婦で参加させて頂き、気が付くといつの間にか私まで早稲田ファミリーの一員になっていました。

各部会の世話人の方々皆様をどうして愉しませよう、何をすれば喜ばれるだろうと労を惜しまず案を練り上げてくださいます。例えばウォーキングなどもコースが決まる

と必ず前もって歩き、何処にトイレ、何処で休憩、などという細かな場所まで調べて地図を作ってくださいています。我々は其れに乗るだけで楽しんでいたような気がして、何時も夫と感謝していました。そして彼はやりたい事、観たいこと、全てに参加して満足して旅立っていきまされたのが二年前のことでした。まさかこの私を新しくファミリー会員として迎えていただくとは、彼は全く想像していませんでした。御陰様でファミリー会員入会のお誘いを頂いたときは、親しいお顔なじみの方が沢山いらして少しも不安も心細さも感じることもなく、二つ返事で申し込ませていただきました。

多くの高齢者の孤独な生活が社会現象の一つになり、国として大きな問題となつている昨今、こうして大きな会に入れていただき活動に加わることが出来るのはこの上もなく幸せな事と思っております。出来る範囲で多くの部会に出席して、心身ともにまだまだ元気で豊かな生活を過ごして行きたいと願っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

歌舞伎に思いを

青木 誠司(昭44商)



平成25年
2月3日市
川團十郎が
亡くなりま
した。白血

病を患い、病と闘いながらの舞台でした。不器用で、決して巧いとは言えない役者でしたが、真摯に舞台に取り組み姿には好感を持っていました。私が観た最後の舞台は、昨年10月4日新橋演舞場での『勸進帳』でしたが、その時の観劇メモから、『歌舞伎十八番の内勸進帳』武蔵坊弁慶／團十郎、富樫左衛門／幸四郎、源義経／藤十郎「七世松本幸四郎の追悼と銘打って、幸四郎、團十郎が出演し、しかも出し物は人気の高い『勸進帳』、それにもかかわらず、客席は8分の入りで、これはやばい。昼の部は團十郎の弁慶、幸四郎の富樫、夜の部はそれが入れ替わる。團十郎は今一元気がない。進るような迫力を感じない。体調が悪いのだろうか。それに引き替え幸四郎はビジュアル的に立派過ぎる。この芝居はなんと言っても弁慶が中心だろうから、富樫の方が

立派というのはバランスを欠く。弁慶が小さく見えてしまう。…平成23年中村富十郎、中村芝翫、平成24年中村雀右衛門と練達の長老たちを相次いで失い、それに加え團十郎がいなくなりました。市川團十郎の名跡は歌舞伎役者の第一人者を表しますが、立派にその重責を果たしました。それに先立ち昨年12月5日、中村勘三郎が亡くなりました。これは大ショックでしたし、暫らく寂寥感から逃れられない状態で、残念以外の言葉が見つかりません。私は、昨年5月7日平成中村座での『梅雨小袖昔八丈』―髪結新三―が最後に観た舞台でした。髪結新三／中村勘三郎、家主長兵衛／中村橋之助、下荆勝奴／中村勘九郎、弥太五郎源七／坂東彌十郎、手代忠七／中村梅玉 これも観劇メモから「勘三郎が元氣になりました。この人が元氣じゃないと寂しい。私は『髪結新三』が歌舞伎の中で好きな演目の一つですが、現存の役者では、幸四郎と菊五郎を観ています。幸四郎は真面目に演じるイメージが強く、菊五郎は生硬なイメージがあります。その点勘三郎は凄味もあり、愛嬌もあり、最もこ

の役に合っていると思うのです。家主にやり込められた新三が、家主の家に泥棒が入り、ざまあみろと快哉を叫ぶ、『胸のつかえが下りた』演技で観客から喝采を浴びていました。…」



勘三郎は、コクーン歌舞伎で串田和美と組んだり、野田秀樹や宮藤官九郎の脚本による舞台も演じ、椎名林檎にBGMを任せたりと意欲的に活動してきました。子供当時から芝居が巧く、当時の松竹会長が、「勘九郎が團十郎になるまで死ねない(これはありえないことですが)」と言ったという逸話が残っています。何と言ってもあの芸風が魅力です。息子の中村勘九郎にはないもので、同世代の立役では坂東三津五郎しかおらず世代のギャップを感じます。「歌舞伎の危機」と言われていますが、良い話題もあります。新歌舞伎座が本年4月2日から茸落(こけらおとし)興行と称

して賑々しくオープンしました。歌舞伎は基本、スターシステムですが、血筋や家格に捉われずスターを生み出すこと、脇役が充実した舞台は厚みが増しますから、脇役を育てることを熱望します。中堅も若手も頑張るでしょうし、私は決して悲観していません。6月の『助六』は海老蔵に交替することが決まりました。周囲からも観客からも信頼される役者になる努力を続けられれば、期待に応えることができるでしょう。

記者の目

◇幹事会
本号から、記者の目で見た取材欄を設け、世田谷稲門会の各セクションの活動の裏側を覗いてみることにした。
先ず第一回は「幹事会」である。幹事会は、毎月第2月曜日の夕方5時から始まる。議題は様々。毎年の会員総会の運営をはじめ、年初の新春懇親会、夏の納涼会等の大型イベントの企画立案やそれらを含む年間事業計画や予算作り、そして各ブロック会や部会との連絡調整作業等々、討議事項や業務分担は多種多様に亘る。
ところが、これ以外にも、会員からの生の声や意見聴取も役員会の重要な活動の一つ。つい最近の例をとれば、開催イベントに対する会員からの忌憚のない声である。若者が参加するには「参加費が高すぎる。5千円程度に出来ないのか!」、ここ数回続いたイベント会場は、「内装こそ豪華だが、急な坂が多く、年寄りには辛く、交通も不便だ!」、等々、まさに声は千差万別。それらの中から、幹事会として対応可能な項目を取り上げ、真剣な議論が行われ、改善策と改善のための対策チームが編成される。特に、今回のテーマは、利便性の良い会場探しと若者が参加し易い参加費との相反する難題である。そして幾つか候補を絞ったの足による道順の確認と会場視察。候補会場では、イベント日程や内容説明等の詳細打合せの後、最後は値段交渉である。果たして今回、対策チームが足で固めた努力の成果はいかに!
来る6月9日(日)の総会には、是非とも皆さま多数にご出席を頂き、会場設定への真摯なご評価を期待するところである。(イナオ/記)

世田谷稲門会 会員異動状況 平成25年3月15日現在

〔新入正会員〕

氏名	卒年	学部	郵便番号	住所	電話	FAX
飯田 保則	昭60	文				
山本 堯	昭39	商				
福田 賢	昭52	理工				
福田 眞弓	昭52	教育				
北垣 紀子	昭38	文				
若林 克彦	昭41	理工				
布川 欽士	昭25	理工				
大村 岳一郎	昭46	理工				
小林 宏	昭55	商				
家井 雪子	昭41	教育				
天野 宏美	昭50	理工				
尾崎 克太郎	昭43	政経				

個人情報につき不掲載

〔新入準会員〕

平成24年11月20日名簿作成以降の新入準会員

正会員名	準会員名	郵便番号	住所	電話	FAX
故齋田 秀雄	齋田 冬生				
矢尾板 煥二	矢尾板 明子				
辻 哲	辻 啓子				
宮木 甫	宮木 艶子				
故後醍醐院 良一	小山 涼子				
高橋 昌久	高橋 恵美子				

〔退会会員〕

氏名	卒年	学部	理由	備考
村山 徹	昭35	文		けやき会
竹村 晃	昭31	商		さくら会
安井 寿々代	昭29	教育		きぬた会
大須賀 肇	昭26	理工		千歳会
橋本 経男	昭46	商		キャロット会
山本 堯	昭39	商		玉川会
白木 茂	昭31	文		けやき会
峰本 俊一	昭28	商		きぬた会
峰本 悼子	昭27	政経		きぬた会

〔住所変更・訂正〕

氏名	卒年	学部	郵便番号	住所	電話	FAX
一由 貴之	平12	社会				
田島 功統	理工	昭36				
下田 達郎	政経	昭39				

〔名簿修正〕

氏名	卒年	学部	郵便番号	住所	備考
磯田 進	昭44	理工			
角田 智生	昭38	商			
下条 忠雄	昭34	政経			

訃報



大須賀 肇氏

昭和26年理工学部卒

世田谷稲門会の元副会長で食べ歩き部会前代表世話人の大須賀氏が、去る2月7日にご逝去されました。御遺志により、去る2月8日に通夜が、9日に葬儀が家族葬にて執り行われました。故人は生前、本会報の責任者として編集、発行業務にご尽力され、世田谷稲門会創立15周年誌「十五年のあゆみ」の編集委員長としても活躍されました。

また、「食べ歩き部会」では、会計その他も一手に引き受けられ、今日の部会の発展に寄与されました。

世田谷稲門会に対する多大なるご貢献と、永きに亘り「食べ歩き部会」をお支え頂いたご業績に深謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

(柏 良子/記)